

子育て支援者養成研修

最近の子育て・親との接し方 (コミュニケーションの取り方)

世田谷総合支所 保健福祉センター 健康づくり課



本日の内容

1. 最近の子育て事情

～何が変わってきたのか考えてみる～

2. 妊娠期から幼児期までの支援

～月齢とともに変化していく母の悩み～

3. 親との接し方

～コミュニケーションの工夫～

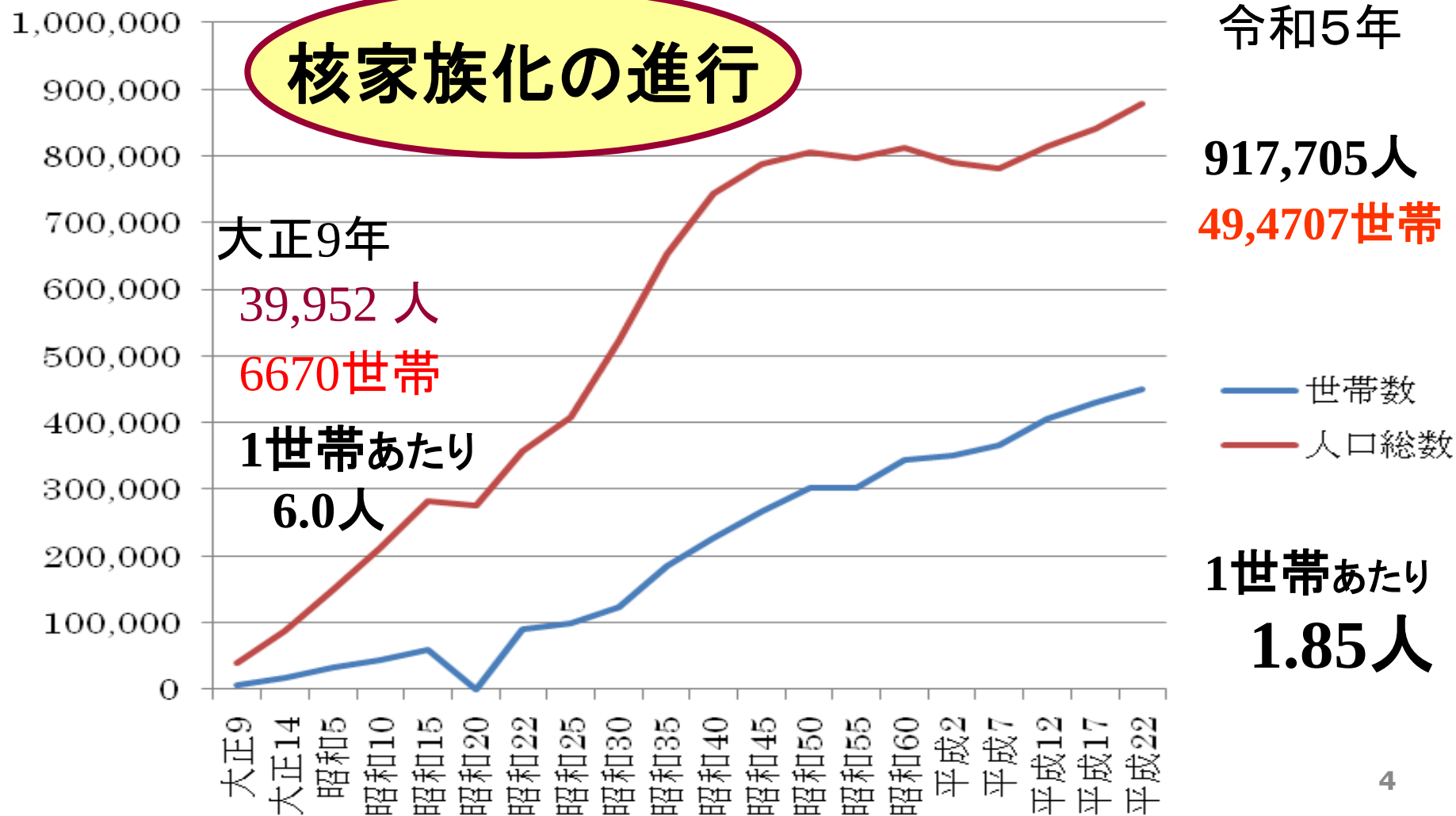
1. 世田谷区の子育て事情



家族形態の変化

世田谷区の人口・世帯数の変化・1世帯あたりの人数

核家族化の進行



クイズ①

世田谷区で1年間に生まれる
子どもの数は？

A:約3000人

B:約5000人

C:約7000人

子どもの数の減少①

昭和22～24年
戦争直後における結婚の増加により、
第1次ベビーブームが起こる

昭和46～49年
第1次ベビーブーム世代が親となり、
第2次ベビーブームが起こる

平成9年～
女性人口(15～49歳)の減少

**出生数の
減少**

世田谷区0歳の子の数

昭和47年

12,867人

H1 5,840 人

H12 5,798 人

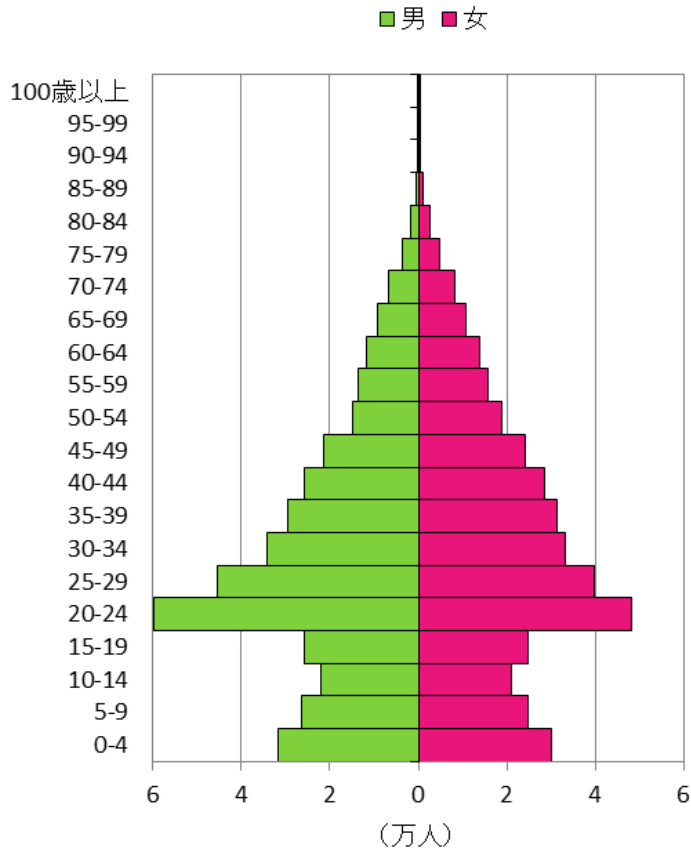
H22 7,289 人

R5.1 5,952 人

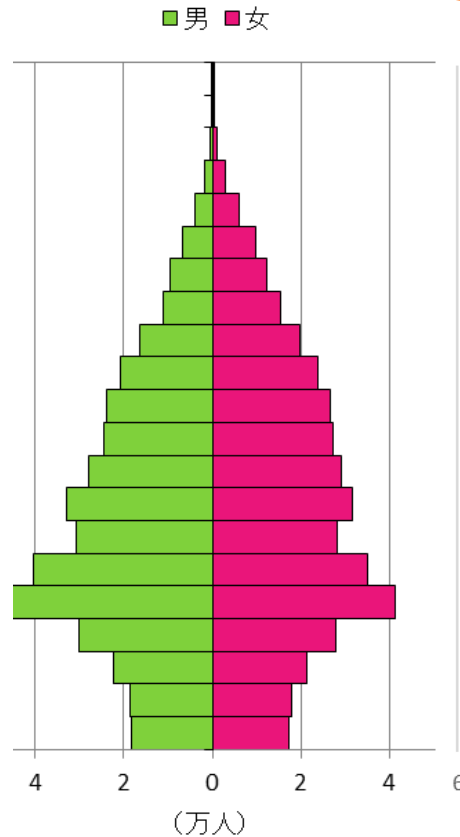
② 子どもの数の減少

人口ピラミッド

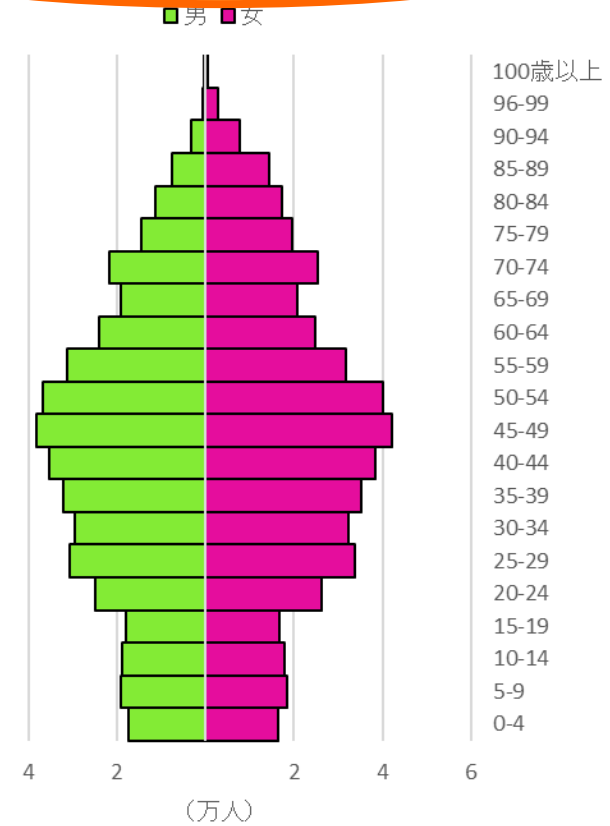
子どもの割合の減少



昭和48年



昭和63年

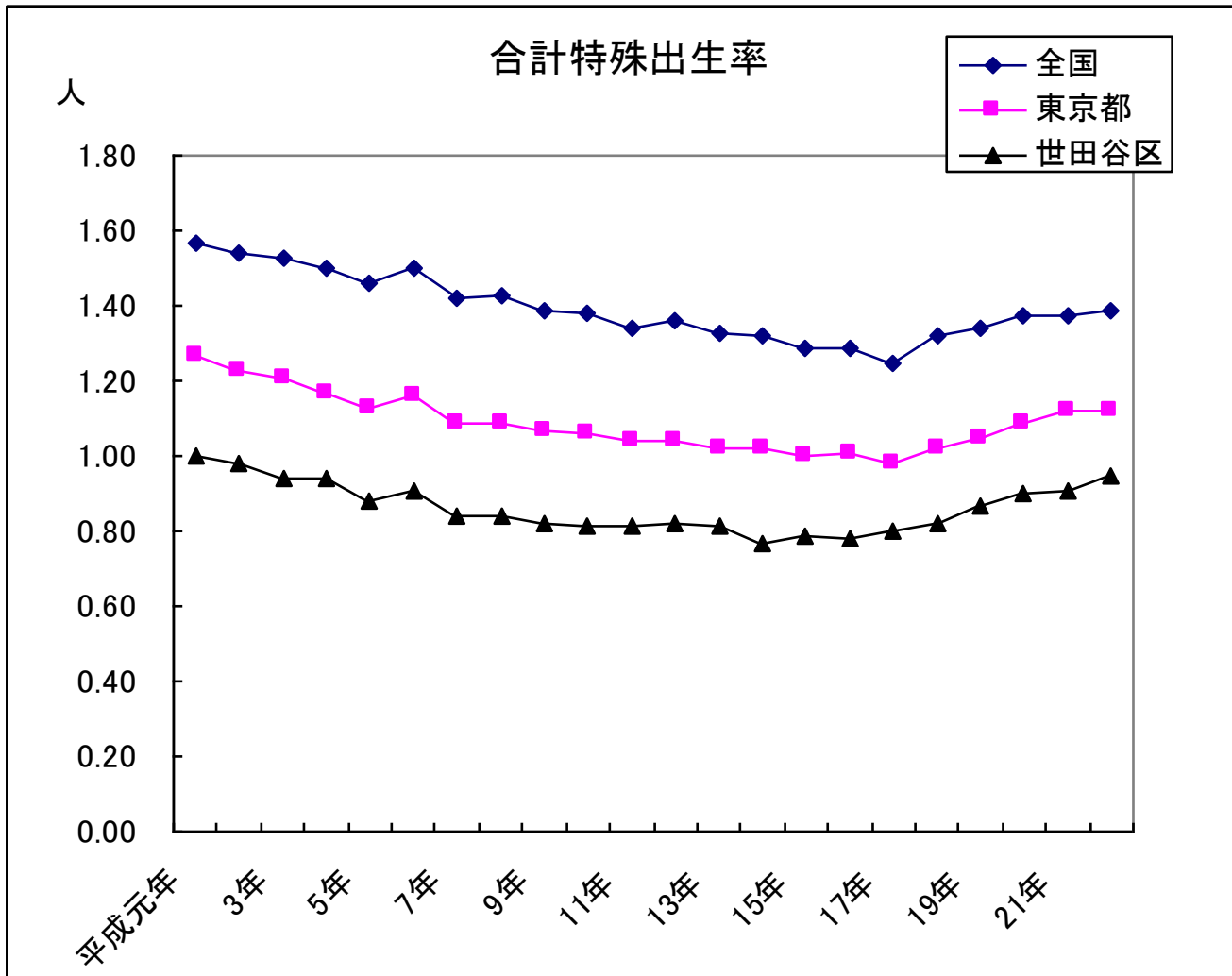


出展 世田谷区統計書

令和4年

子どもの数の減少 ③ 合計特殊出生率

一人の女性が一生のうちで出産する子どもの数



令和 3年

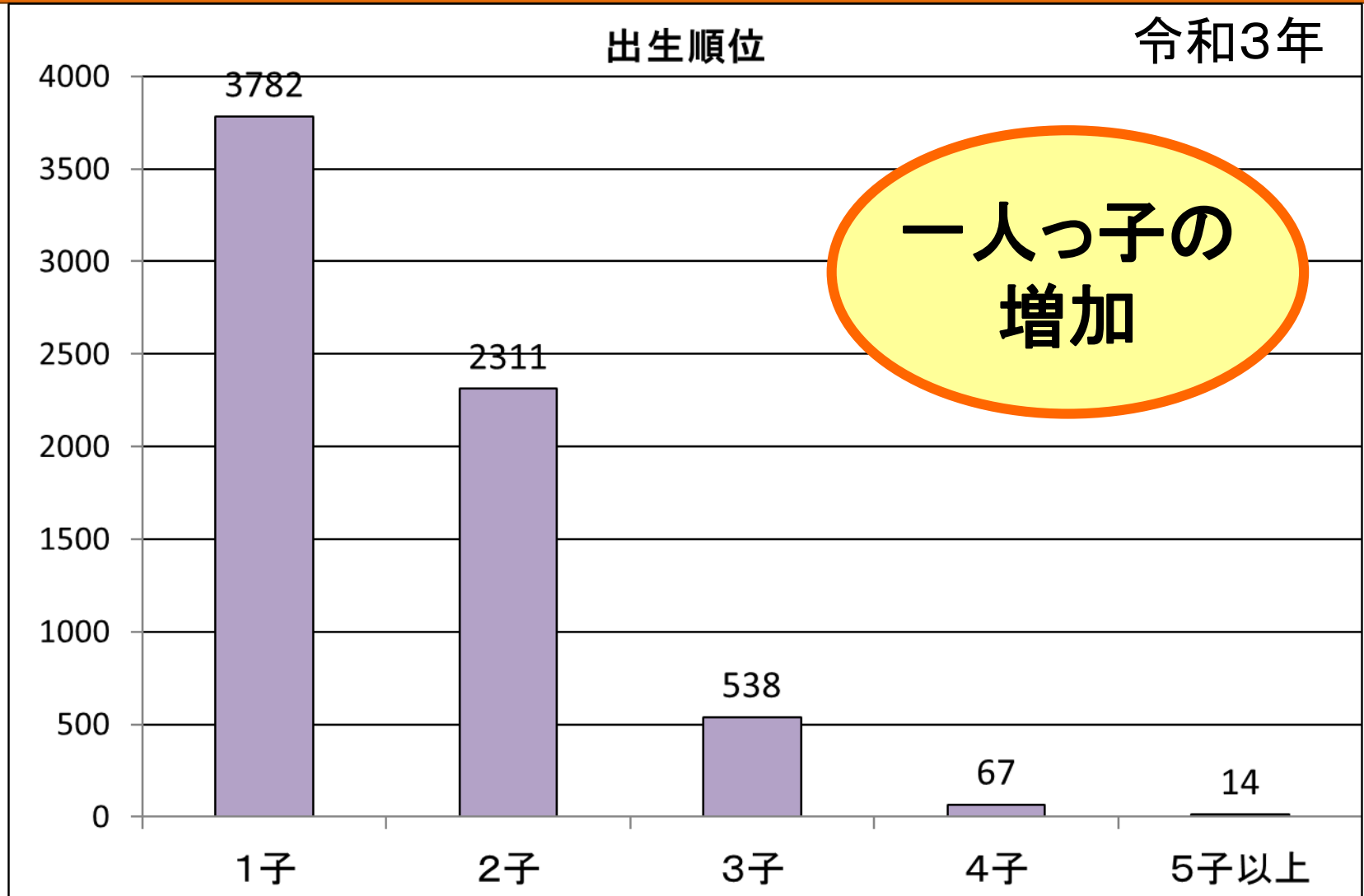
全国 1.30

東京都 1.08

世田谷区 1.02

子どもの数の減少 ④

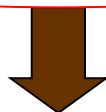
出生順位「1人目? 2人目? 3人目?」



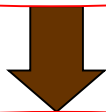
出産年齢の高齢化

出産年齢の平均

昭和44年 22～27歳
(第2次ベビーブーム直前)



平成元年 27～29歳



平成21年 29～31歳



クイズ②

世田谷区で出産する母親の年齢は
35歳以上が何%？

A：約25%

B：約45%

C：約60%

情報環境の変化

パソコン・インターネット・携帯電話の普及

- 1980年代頃(S55頃) 企業にパソコン普及開始
- 1990年代(H2頃) 個人宅にパソコン普及開始
インターネットが急激に台頭
- 2000年(H12頃) 個人にパソコンが普及
携帯電話が普及し始めた
- 2019年12月 新型コロナウイルス感染流行により
益々オンライン化

ママ友とのコミュニケーション
手段の変化

必要な情報の選択
が難しい

ファッション誌のような育児雑誌の出現

育児の
ファッション化

理想と現実の子育てとの間で
苦しむママ達

パパの家事&育児

父親の家事&子育て意識は変化したか

乳幼児健診に同伴するパパ

家事ができるパパ

**イクメン
イケダン**

**母が求めていることとのギャップ
「ただ話を聞いてほしい」**

夫婦のコミュニケーション

男女の脳の違い

男性・・・「問題解決思考」

女性・・・「共感性思考」

→コミュニケーションの食い違い

★ママはお願い上手に

★パパは聞き上手に

子育てを巡る最近のコトバ

★ワンオペ育児

- 一人きりで子育てをしている状態。
働き方を見直す必要も。

★産後クライシス

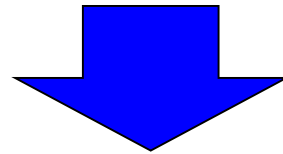
- 産後2～3年ほどの間に夫婦仲が悪化するという現象。

子育て世代の理解

核家族化

兄弟が少ない

子どもと接する機会が少ない



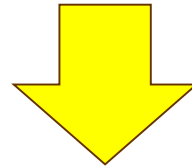
生活体験が少ない

世代間のギャップ

育児の常識の変化

祖父母世代との躾の方針の違い

ギャップ



ありがたいけど……困惑



地域とのつながりの変化

自分が育った環境ではない場所で
子育てを開始すること

馴染みの仕事仲間から、
新たな子育て仲間の中へ

仕事中心の生活→・母親学級でママ友との出会い
・出産病院でのママ友との出会い
・子育て開始、地域デビュー

親だけで子どもを育てることの限界

子育て川柳

イクメンを 育てる前に 子が育つ

よく噛んで！ そういう母は 流し込む

寝かしつけ 子どもが寝ずに 親が寝る

育児とは 夫と私の 育自なり

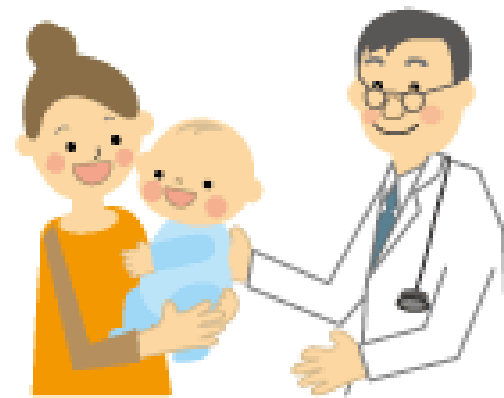
ワンオペも 逆手に取れば ひとりじめ

2. 妊娠から幼児期の支援

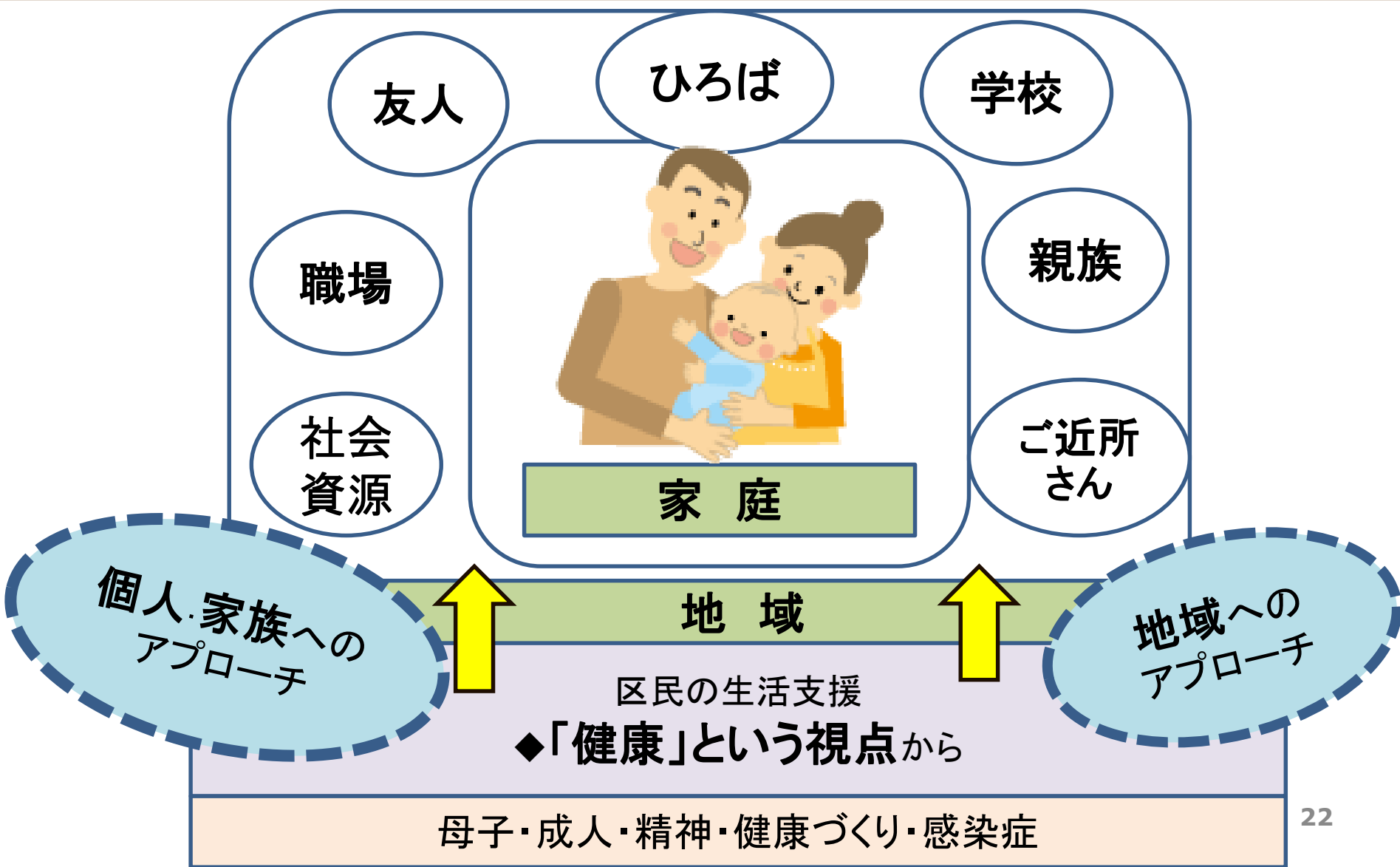


健康づくり課の母子支援

- ① 保健師、栄養士、歯科衛生士の相談
- ② 妊娠期面接
- ③ 母親・両親学級
- ④ 乳児期家庭訪問事業
- ⑤ 乳幼児健康診査
- ⑥ 子育て講演会、親子支援グループ
- ⑦ こころの相談
- ⑧ 区民健診(16歳～39歳、500円)
- ⑨ 地域のネットワーク活動



健康づくり課 保健師の仕事



妊娠期からの支援:世田谷版ネウボラ

妊娠期からの切れ目ない支援体制

対象：妊婦や乳幼児を育てるご家庭

区・医療・地域が連携しながら、
切れ目なく継続的に見守り支え、
「子どもを生み育てやすいまち」を
目指しています

妊娠期からの支援：妊娠期面接

妊娠届のアンケートで聞いている事

- 今の気持ち
- 心配、困っている事
- サポート体制 など

妊娠出産への様々な思い

- 待望の妊娠
不妊治療でようやく授かったけれど・・・
理想と現実のギャップ
- 予期せぬ妊娠
自分の思い 夫の思い
育てていけるのか不安な気持ち・・・

保健師の支援：両親学級

＊平日・休日 両方開催

- 妊娠中の過ごし方
- 赤ちゃんを迎える準備と心構え
- 生まれたばかりの赤ちゃん
との生活
- お風呂の入れ方
- 地域の子育て支援情報



保健師・助産師による支援：赤ちゃん訪問

- 平成21年4月から児童福祉法改正により乳児期家庭全戸訪問事業が開始。
- それまでの「新生児訪問事業」を「乳児期家庭訪問事業(愛称:赤ちゃん訪問)」として拡大実施。
- 母子手帳に付いている「出生通知票(はがき)」を提出してもらい訪問実施。

クイズ③

世田谷区で生まれた赤ちゃんの何%が
赤ちゃん訪問を受けているでしょう？

A：約50%

B：約75%

C：約95%

クイズ④

赤ちゃん訪問後の継続支援は何%？

A：約30%

B：約50%

C：約70%

赤ちゃん訪問時のママ達の声①

- 頻回な授乳、オムツ替えで夜眠れない1カ月
- 核家族のため家族からの支援が得られない
- 里帰り分娩とその後の一人での育児のギャップ
- 人と違うと不安になる
- 雑誌やネット上の理想的な子育て像と比較

赤ちゃん訪問時のママ達の声②

- 「母乳育児でなくては」 がんばり過ぎるママ
- 泣き続ける赤ちゃんと泣き声を聞くのが
つらくなるママ、産後うつ
- パパに期待すること 「話しを聞いてほしい」
- 夫婦のコミュニケーション

世田谷区の子育て支援事業

- 産後ケアセンター（宿泊・デイサービス）
- 児童館での0・1歳児グループ
- おでかけひろば
- ファミリーサポート事業
- 子育てサロン

保健師の支援：健康診査

3・4ヶ月児健診 (乳児健診)



保健師の支援：3～4ヶ月児健診

初めての集団健診

- 「私の子育て、大丈夫かな？」（不安）
- 赤ちゃんの体重が気になる
- 母乳は足りてる？離乳食どうしよう・・・
- 予防接種・保活（保育園探し）の日々
- 兄姉の赤ちゃんがえり

保健師の支援：健康診査

1歳6ヶ月児健診 (内科・歯科健診)



保健師の支援：1・6 歯科健診

「おしゃべり」「あんよ」かわいいけれど……

- 1歳6カ月イヤイヤ期
「私ってしかりすぎですか」
- 育てにくい子
- 子どもを可愛く思えないと
自分を責めるママ
- 働くママが陥りやすい落とし穴
(仕事と子育ての違い)

保健師の支援：健康診査

3歳児健康診査



保健師の支援：3歳児健診

- トイレトレーニングがうまくいかない
- 発達障害が見え隠れする子ども達
- 幼稚園入園にむけて頑張る親子

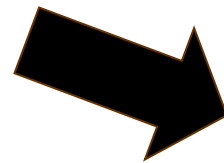
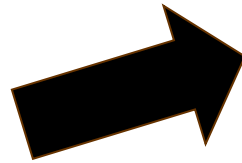


3. 親との接し方 (コミュニケーションの工夫)



コミュニケーションの重要性

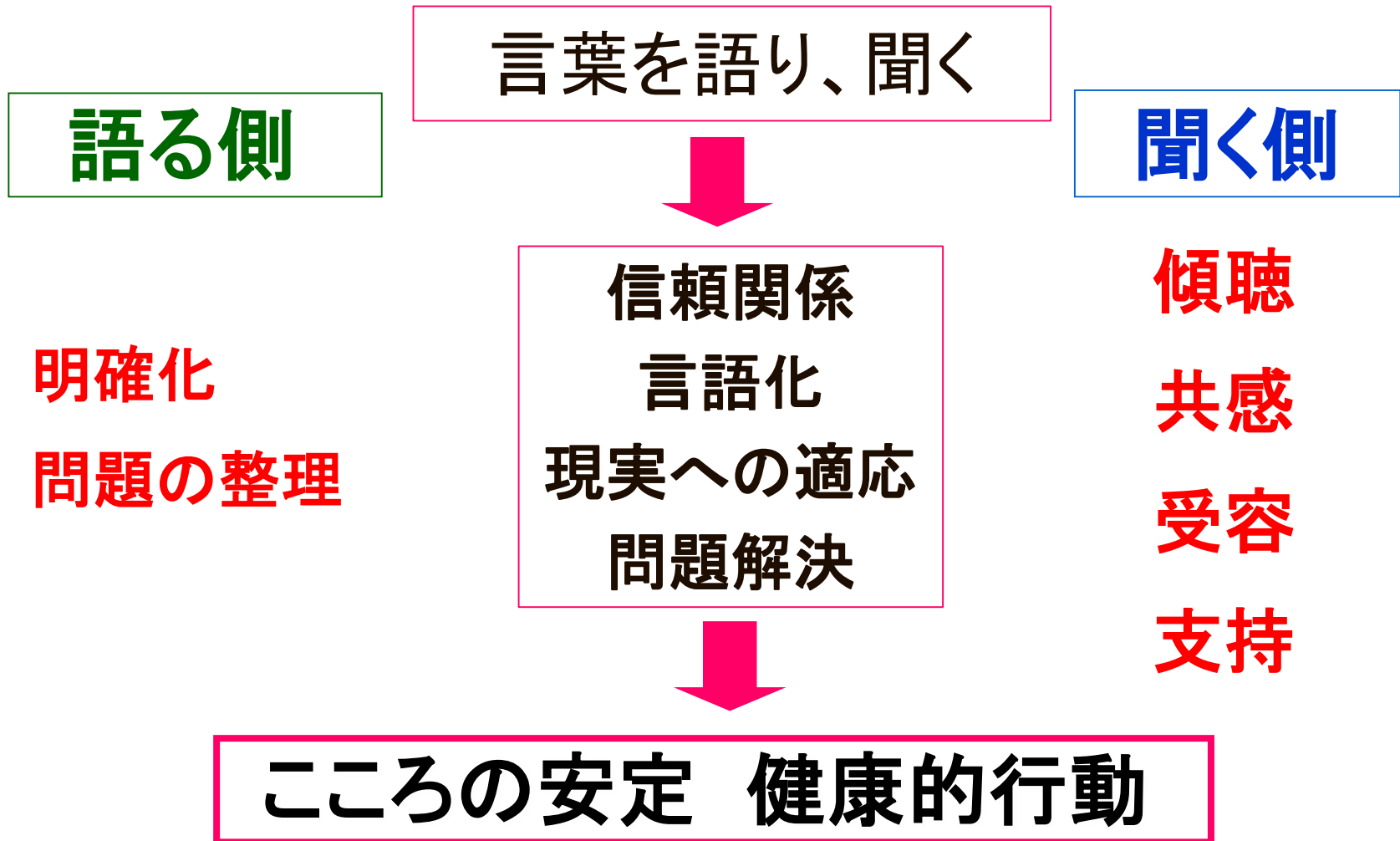
言葉にする



放って置く



コミュニケーションの重要性



コミュニケーションの重要性

子育て支援で大切にしていること①

相談者の話をよく「聞く」「聴く」
よい点を見つけて肯定的に伝える

ほめられる ➡ 不安の軽減 ➡ 自信 😊

コミュニケーションの重要性

子育て支援で大切にしていること②

①ありのままを受け止める

母性神話を捨てる

②真のニーズを汲み取る

③決定するのは相談者であること

コミュニケーションの重要性

子育て支援で大切にしていること②

④子どもを守る視点を忘れない

⑤自分の役割をこえない

（役割を超える場合には他者と連携する）

⑥支援がおせっかいにならない

傾聴とは？

- ただ聞くだけでなく、注意を払って、深く、丁寧に耳を傾けること。
- 自分が聞きたいことではなく、
「相手が話したいこと」「伝えたいこと」
を受容的・共感的な態度で真摯に聴くこと。



コミュニケーションの重要性

子育て支援で大切にしていること③

支援者の心身の健康

- ・身体健康管理をしていますか？

症状がなくても1年に1回は健康診断を受けましょう。

- ・趣味をもち心身のリフレッシュをしましょう。

- ・支援の中で心配や気になることがあれば相談を！

皆さまの力をお貸し下さい！

ご清聴ありがとうございました。

この講座が皆様の活動の助けとなれたら
うれしいです。
今後ともよろしくお願い致します。